

大音生活にもっと“キラリ”を♪

MUSE

7 Vol.242
July
2017

響け、届け、この思い 音楽の伝え方。

演奏会での生演奏やインターネットでの配信など、
多様化する「音楽の伝え方」に迫りました。

MUSE

July 2017
Vol.242

音楽の伝え方。

学校法人 大阪音楽大学出版部 MUSE | Vol.242 | 2017年7月15日発行 | <http://daion.ac.jp>
発行：学校法人 大阪音楽大学 〒554-8555 豊中市内本町1-1-8 TEL:06-6334-2704 FAX:06-6334-2141
制作・編集：広瀬屋 muse@daion.ac.jp 制作協力：印刷：(株)高瀬メディアネット

大阪音楽大学

CONCERT SCHEDULE

演奏会やオペラなど、大音関連のイベント。

大阪音楽大学主催公演

大阪音楽大学コンサート・センター
TEL:06-6334-2242

開催日時・出演者が変更になる
可能性があります

大阪音楽大学管弦楽団
サマー・コンサート2017
7/21(金) 18:30～ ●指揮:新通英洋、
Pf:田代彩、管弦楽:大阪音楽大学
管弦楽団 ●OH ●1000円

ミレニアムピアノコンサート
◎第4回:9/15(金) 17:15～ ●木村直美、
西本由香 ◎第5回:10/12(木) 17:15～
●雷塚三起子、田中紀子 ●MH ●無料

第54回ミレニアム・スチューデント・
コンサート
第1夜・10/18(水) 18:00～、第2夜・
10/20(金) 18:00～ ●オーディションによ
る選抜学生 ●MH ●無料(要整理券)

第53回オペラ公演「偽の女庭師」
11/3(金祝) 14:00～、11/5(日) 14:00
～ ●指揮:牧村邦彦、演出:井原広
樹、管弦楽:ザ・カレッジ・オペラハ
ウス管弦楽団 ●OH ●一般5000円、
高校生以下3000円(全指席)

大阪音楽大学共催公演

常翔&大音コラボレーション@茶屋町
ビッグバンドライブ
(共催:学校法人常翔学園)
9/14(木) 19:00～ ●大阪音楽大学
ジャズオーケストラ ●大阪工業大学梅
田キャンパスOITタワー3F常翔ホー
ル ●1000円

第7回豊中子ども音楽フェスティバル
(共催:豊中中央ライオンズクラブ・豊中市)
10/1(日) 14:00～ ●豊中市立第九中
学校吹奏楽部、豊中市立第十一中
学校吹奏楽部、箕面自由学園高等
学校吹奏楽部 他 ●OH ●無料(要入

場整理券)

大阪音楽大学後援演奏会

光あふれる季節に広兼啓子・脇山幹士
ジョイントコンサート
7/16(日) 14:00～ ●Pf:広兼啓子、脇
山幹士 ●世良美術館 ●一般3000
円(当日3500円)、学生2000円 ●
hikariafurerutokini@yahoo.co.jp
([光あふれる季節に]事務所)

溝口眞知子と仲間による
ジョイント・コンサート

7/21(金) 19:00～ ●溝口眞知子、老田
裕子、尾崎多恵、端山梨奈、植田祐
佳 他 ●いずみホール ●4000円 ●☎
050-5276-8123(植田)、☎06-6944-
1188(いずみホールチケットセンター)

ヴィオラコンサート

～大阪府立夕陽丘高等学校卒業生・
教員による声楽ガラコンサート～
8/15(火) 17:00～ ●石橋栄美、篠原美
幸、高木有紀、井上美和、田中友輝
子、谷浩一郎、松原友、山本佳人 他 ●
いずみホール ●3000円(当日 3500円)
●☎06-6625-0075(松原)

みんなで楽しむ10歳からの

ミュージカル「ピノキオはロボット」
8/18(金) 10:30～、14:00～ ●キャス
ト:三谷晴佳、濱口ななみ、金世鈴、
奥村哲、谷岡真衣、奥山里央、亀井
香里、中土喜志代、演奏:赤井那緒
子、河井真優、長谷川智子、宮崎香
織、安川夏末 ●豊中市立文化芸術セ
ンター小ホール ●小学生以下1000
円、中学生1500円、大人2000円(当
日各500円増し) ●☎050-7108-1971
(どれみふぁりばーれど代表 三谷晴佳)
doremifaparade@gmail.com

ヴィニーチョ・アレグリーニ&
竹中真 with アンサンブル・
サビーナ コンサート

8/20(日) 13:30～ ●Tp:ヴィニーチョ・

アレグリーニ、Pf:竹中真、アンサンブル・
サビーナ ●豊中市立文化芸術センター
大ホール ●3500円(当日4000円) ●
☎06-6844-8787 (イタリア生活文化
交流協会) hotaru@sabina-net.jp

バックス第5回演奏会

8/24(日) 19:00～ ●石橋輝樹、佛田
明希子、上田浩子、小椋順二、首藤元、
藤井快哉 ●豊中市立芸術文化セン
ター小ホール ●3000円(当日3500
円) ●☎06-6377-1117(ドルチェ楽器)
museumpiece.ticket@gmail.com

大阪音楽大学同窓会<幸楽会>

奈良県支部 大音コンサート
9/10(日) 14:00～ ●芦田京子、浦恩
城利明、千葉いつみ、鶴谷保枝、中
木愛香、川端里沙、前田津津子 他 ●
なら100年会館中ホール ●2000円 ●
☎0742-244-2948(打田)

鈴木英明ピアノ作品展

9/17(日) 16:00～、9/23(土) 16:00～
●Pf:中村和枝、鈴木智恵 ●三木楽
器開成館(大阪)、東京モノホール ●
一般3000円、学生1500円 ●☎080-
2042-1180(鈴木)

丸山耕路ピアノリサイタル

バッハ その響きの宇宙へ
10/21(土) 14:00～ ●東梅田教会 ●
3000円 ●☎06-6345-1046(日本
テレマン協会)

～没後80年CD発売記念～

北浦洋子 貴志康一を弾く
10/28(土) 16:00～ ●Vn:北浦洋子、
Pf:竹内素子、Vc:皆川隼人 ●松方
ホール ●3000円(会員割引)、当日
3500円 ●☎078-362-7111(神戸新
聞松方ホール)

幸楽会後援演奏会

2台のピアノで奏でるアルムニコンサート
7/30(日) 12:30～ ●Pf:中尾恵&松

尾美保、鈴木晶子&河野香織 ●カワ
イ梅田コンサートサロン ジュエー ●一
般2500円、学生2000円 ●☎0721-
56-2387(アルムニコンサート企画)

第17回寝屋川フレッシュコンサート
&定期演奏会 PASSION

～真夏のコンサート～
8/5(日) 14:00～ ●Pf:佐藤亜友美、
Sop:中島奈津美、Sax:西村公平
他 ●門真市民文化会館ルミエール
ホール内 小ホール ●一般1000円、
小学生・60歳以上500円 ●☎072-
856-1672(山添)

音楽のおもちゃ箱

クラシック&ポップスコンサート
～音楽の旅を一緒に～
8/13(日) 14:00～ ●Pf:道旗彰子、
Bar:道旗直樹、Vn:道旗維子、
Sop:道旗良枝 ●川西市みつなか
ホール1F文化サロン ●一般1500円
(当日2000円)、小・中学生500円
●☎072-794-6621(オフィス・ナウ)

安川忠之テノールリサイタル

8/27(日) 15:15～ ●Ten:安川忠之、
Pf:關口康祐 ●アルカディア・グレ
ースホール ●3000円 ●☎0797-34-
4333(公益財団法人アルカディア音
楽芸術財団)

合唱団 CET 第2回演奏会

～「祈り」の世界～
9/30(土) 15:00～ ●音楽監督・指揮:
Pf:宮崎剛、M.Sop:雑賀美可、P
アンドレオン:星野俊路、CETアンサ
ンブル ●いずみホール ●2000円(当
日2500円) ●☎090-6905-1211(で
きがい)

くまの集会 Part10

10/8(日) 14:00～ ●Fl:石原栄子、
Cl:廣谷幸子、Pf:春本佳代、Vn:
時本さなえ ●エル・おおさか地下1F
ブチ・エル ●一般2000円、高校生
以下1000円(当日各500円増し) ●
☎090-5648-6348(春本)

OH:ザ・カレッジ・オペラハウス MH:ミレニアムホール ※必ず主催者発表のものと同照してご確認ください。



次号は
10月15日
発行予定です。

「MUSE」の住所・氏名変更の手続きについて>変更前と
変更後の住所や氏名(よみがな)を大学へお知らせください。
メール(muse@daion.ac.jp)かFAX(06-6334-2141)で
受け付けております。
※郵便局の転送サービスは期間が終了すると配達されなくなります。

右記のSNS配信
サービスでも大音
情報をチェック
できます。

最新情報を配信中!



公式FB @occm_l daion_insta



指揮

卒業後の進路にも影響を与えた、半年間の刺激的な経験。

石井 勇魚 [管楽器専攻(サクソフォーン)・大4]

オペラの指揮はオーケストラだけでなく、舞台上の歌や演技、照明、舞台の転換、幕が閉まるタイミングまですべてをシンクロさせる非常に難しい仕事。みんなの“羅針盤”になることに最大限の努力をしました。稽古は1月から始まり、週4日。演奏する全28曲に対する演出の意図やリクエストを地道にすり合わせる日々でした。公演終了後に感じたのは充実感と、主役のキャスト並みの幸福感。この幸福感に影響され、大音を卒業した後はもう一度指揮科がある大学に入ろうと考えています。



制作統括

ダイレクトに伝わる演者のエネルギー。“生”の演奏に触れてほしい。

山田 采 [声楽専攻・大4]

制作統括はホールの確保からスタッフの配置、お金の管理など、公演のすべてを取り仕切る役目。制作統括がいなければ何も進まないのですが、今回はなかなか人選が進まず昨秋の段階では「今年はTutti中止かも」という声も聞こえていました。でも、私自身舞台に出るのが好きですし、学生生活最後の年に中止になるのも惜しくて、キャスト(キューピドン役)兼任で引き受けることになりました。スタートが例年より大幅に遅れたので、キャストのオーディション、合唱の募集と何から何までバタバタ。授業の課題やキャストとしての稽古とも並行しながらとて

も密度の濃い日々でしたが、先生、先輩からのアドバイスや周囲のサポートも受けながら乗り切ることができました。公演終了後、出演者やスタッフから「制作をやってくれたおかげでTuttiができてよかった」って言ってもらったのは「やってよかった」と感極まる瞬間でした。Tuttiに限らず、“生”の魅力は舞台に出ている人の息づかいがダイレクトに伝わること。演者が出すエネルギーはどんなに高性能な映像機器でも表現しきれないのではないかと思います。今はオペラに興味がない人でも、ぜひ、足を運んで“生”に触れてほしいですね。

Tutti2017「天国と地獄」

5月14日、ザ・カレッジ・オペラハウスでTutti2017が開催されました。今年の演目はジャック・オフエンバック(Jacques Offenbach)の喜歌劇「天国と地獄」。元々はギリシアの神々の姿を借りて当時の社会を風刺した作品で、親しみやすく魅力的な旋律が全篇にあふれています。今回の公演では時代を現代に置き換えて構成。全編日本語で見やすく入り込みやすい展開に、公演終了後には「面白かった」「わかりやすかった」といった声が寄せられました。

01

> LIVE

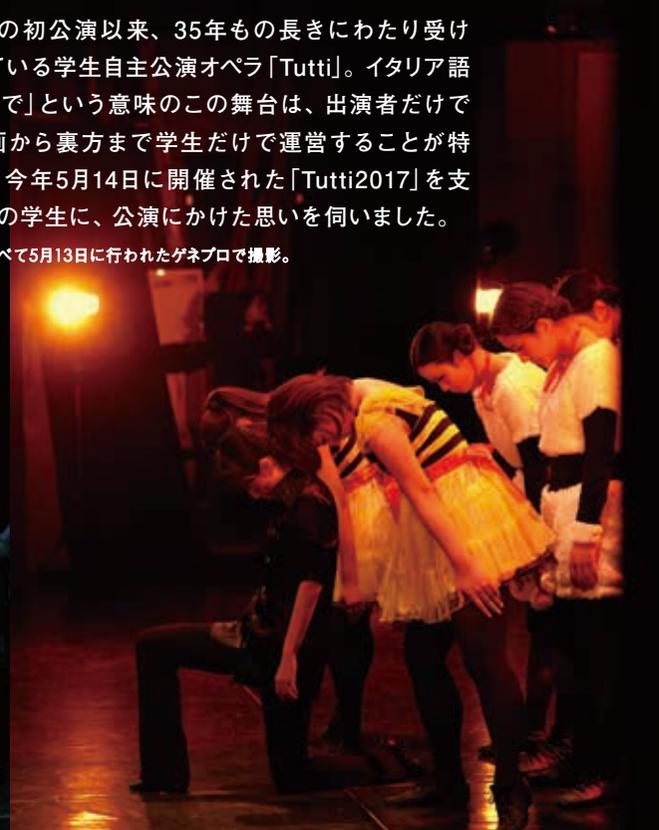


学生オペラTutti『天国と地獄』

楽しみながら創り上げる。 学生だからこそできる “最高の舞台”

1980年の初公演以来、35年もの長きにわたり受け継がれている学生自主公演オペラ「Tutti」。イタリア語で「全員で」という意味のこの舞台は、出演者だけでなく企画から裏方まで学生だけで運営することが特徴です。今年5月14日に開催された「Tutti2017」を支えた4人の学生に、公演にかけた思いを伺いました。

※写真はすべて5月13日に行われたゲネプロで撮影。



学内外を含め、年間200回を超える公演機会。

“生”で伝える本番の数が大音の強み。

クラシックだけでなくジャズ、ポピュラー、邦楽と幅広い専攻・コースを備える大阪音楽大学。在学中から数多くの“本番”を経験できることが強みです。

PIANO



ORCHESTRA



POPULAR



ELECTRONIC ORGAN



OPERA



TRADITIONAL JAPANESE MUSIC



MUSICAL



DANCE



JAZZ



EVENTS



舞台監督

観客からの拍手を受ける仲間たちに、学生だけで作り上げる達成感を得た。

竹國友也 [声楽専攻・大3]

舞台監督として心がけたのは、演出担当の考えをできるだけ引き出し、その思いを舞台上で具現化すること。そして、出演者やオーケストラの立場で考え「自分だったらどうしてほしいか」という視点で行動することでした。舞台監督として一番感動したのはカーテンコールのとき。約半年間、一緒に頑張ってきた仲間がいっぱい拍手を受けている姿を舞台袖から見るのが達成感を得られた瞬間でした。学生だけで作り上げる感動は大音ならではの、とTuttiを通して改めて感じました。



演出

**最初で最後のTutti。
演者自身から湧き出る動きを重視。**

上野ゆう [声楽専攻・大4]

初めて参加するTuttiで演出を担当することに。不安もありましたが、初めてだからこそ自分のやり方でやってみようと思いを決めました。「自身の中から湧き出る感情、動きが最も美しく見える」と考え、私が指示するのではなく、キャストが動きやすいように動いてもらうことを心がけました。また、LINEの効果音や“恋ダンス”など現代風の要素も織り交ぜ、見る人が入り込みやすい工夫もしました。公演終了後、「わかりやすかった」という声をいただけたのは、私の思いが伝わったのかなと感じています。



上:「日本一長い」と自負するコンサートのMC。「もっと歌が聞きたい」という声もありますが、歌が多いと「もっと話が聞きたかった」という声も(笑)。賛否両論あるのが、私のコンサートの特色だと思っています」
下:毎年チケットが完売になる「橋本恵史のお楽しみ会」では高座名「おんち亭うたい」として、独学で習得した落語を披露することも。「短い話の中に起承転結、笑いどころ、落しどころ、泣かせどころがある落語はMCにとって非常に役立っています」



03

> TALK

橋本恵史

テノール歌手
[声楽専攻・2008年度院修]

音楽だけでは伝えきれない気持ち、“日本一長い”MCで表現。

人前で話すことは昔から好きで得意でした。だからというわけではありませんが、今でもクラシック音楽のコンサートをしている音楽家の中で、MCの時間が私が一番長いと思っています。音楽家＝表現者である以上、音楽だけでは伝えきれない自分の気持ちは言葉で伝えなければなりません。「なぜこの曲を選んだのか」「この曲にどういう思いを持っているのか」――次に歌う曲に説得力を持たせるためにも、その前に話す自分の、生の声、というのは非常に大事だと考えています。大音に入るまではクラシック音楽は嫌いでした。自分がそつであったように「退屈」「面白くない」と感じる人の気持ちがわかるので、プロの歌手になった今は「クラシック音楽の間口」を広げることを意識しながら活動しています。私が主催するコンサートは必ず「未就学児OK」。小さい子どもでも来られる環境を作り、MCでは会場にいる全員に私の思いを届けるためなるべく易しい言葉で語りかけるようにしています。目指しているのは会場にいる観客全員を虜にしてしまうような話し方。2000人のお客さんがいるとしたら4階席の一番端っこ、米粒のようにしか見えない人こそ、私の一挙手一投足が届くような話し方ができるようにしたいと思っています。

人柄は文章に表れるもの。常に「きちんと書く」意識が大切。

栗本葉瑠花 [ピアノ・大学専攻科]

演奏会にはいろいろな年代の方が来られますが、その全員と直接お話しすることはできないので、プログラムの解説文などは簡潔でわかりやすい文章を書くスキルが必要です。私が初めて支援室を利用したのは大学4年生のとき。それまでは文章に苦手意識があったのですが、支援室のアドバイスを元書いてみると非常にわかりやすい文章になり驚きました。文章には人柄も出るもの。どんな人がどんなところで読んでくださっているかわかりません。普段からきちんとした文章で伝えるという心掛けは非常に大切だと思います。



最初は音楽書きのメモ書きを持って行っていました。そこで文章に必要な要素や組み立て方のアドバイスをいただき、原稿用紙に整理して書くということを繰り返しました。

日本語ライティング支援室で、「書いて伝える」スキルを磨く。

02

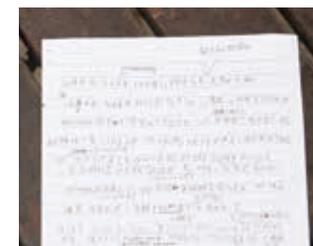
> WRITE



声に出して読むことで、文章の違和感が明確に。

安藤成志 [管楽器専攻(オーボエ)・大3]

1年生のころ自主的な公演でプログラムノートを担当することになったのが支援室を利用するきっかけでした。それまでは、苦手意識もありわかりにくい文章になっていたのですが「書いてから一度声に出して読んでみるといいよ」というアドバイスをいただき試してみると文章の違和感が浮き彫りになり、どこを修正すべきか明確になりました。今でもプログラムノートを担当していますが、音読は欠かさず実践しています。最近はプロの演奏会に行っても、プログラムノートの言い回しや書き方に注目して読むぐらい、言葉への意識が高まってきたと感じています。



演奏会のプログラムノートを書くときには「一番伝えたいことは何か」を常に意識。曲数が多いので、まずは自分で文章化してから支援室のアドバイスを仰ぐようにしています。



BREMEN

サクソフーンカルテット

渡辺有歌子 [管楽器コース・2016年度短大卒]

佐藤朱梨 [作曲コース・短2]

鹿島冴華 [管楽器専攻(サクソフーン)・大3]

藤瀬雅優 [管楽器専攻(サクソフーン)・大3]

コンサートの告知を目的に利用。
Twitterの拡散力に驚きました。

同級生のカルテットとして、福祉施設や地域のイベントなどで演奏活動をしています。Twitterでの発信はコンサートの告知を目的に、結成とほぼ同時にスタート。数あるSNSの中からTwitterを選んだのは手軽に使えることと、同世代の人たちの利用率が高いこと。また、リツイート(拡散)されやすいことも理由の一つでした。人気アニメのテーマ曲を演奏した動画はものすごい勢いでリツイートされてびっくりしました。ネットには物理的な「距離」がないので、遠方の知り合いにも手軽に活動を伝えられることが利点。また、動画の撮影は集中力と忍耐力が必要なので、自然に演奏のクオリティーやスキルも上がったかも(笑)と感じています。



取材時のムービーも配信中。
ぜひチェックしてください!!!

@BREMEN_SAX4

「学生は高い機材を買えないので」動画はスマートフォンを画面に載せて撮影。



04

> SNS

距離や時間を超えた広がり、
改めて感じるネットのチカラ。

全世界につながるインターネットの世界。
TwitterやYouTubeなど、
SNSを上手に利用して
音楽活動を発信する皆さんを紹介します。

佐野さんの1st Albumが
2017年4月20日に発売されました



「It's My Life」
11曲入り
2500円(税込)
佐野さんのブログから
購入できます。

<http://ameblo.jp/sanohitomi-musicchallenge/>



取材時のムービーも配信中。
ぜひチェックしてください!!!

HITOMI SANO

佐野仁美

ピアノ弾き語りシンガーソングライター
[ポピュラー・コース・2015年度短大卒]

日本全国に応援してくれる人がいる。
SNSだからこそ広がった人の輪。

高校1年生から音楽活動をスタート。不特定多数の人に見てもらえるSNSで「佐野仁美」を知ってもらおうとYouTubeを利用し始めたのが高校3年生のときでした。当初の半年間は鳴かず飛ばずで何をやっても見てもらえませんでした。試行錯誤しながらあきらめずに5年間続けてきた結果、今では日本全国のどこの都道府県に行っても私を応援してくれる人がいるまでになりました。普段の活動では絶対に出会えなかった人に私の音楽を届けられる——これはSNSを使っていて良かったと感じる部分です。たくさんの人に見てもらえる分、中には厳しい意見や心ないコメントをもらうこともあります。もちろん傷つくこともあります。精神的に強くなる」と前向きにとらえています(笑)。大切なことは、いろいろな意見を知らうえで活動にどう生かすか。高評価も低評価もバランスよく採り入れるように心がけています。再生回数やコメント数などの数値が実力を測るひとつの目安になるSNS。音楽業界の人にもチェックしているようで、私にお仕事のオファーをしてくださる方も「YouTubeやツイキャスを見たから」ということが多くなっています。「見られている」というのは、いい意味でのプレッシャーにもなりますし、練習以上の経験を積める絶好のチャンスでもあります。最初の一步は勇気がいりますが、まずは「やってみる」ことが大事なんじゃないかと思っています。

佐野さんのYouTube 配信に密着しました。



マイクの前は反射音や雑音が入り込むのを最小限に抑える「ヴォーカル・ブース・デスク」。自宅での録音には欠かせません。



動画の制作は画面起こしからスタート。20歳の誕生日に姉からもらった写譜ペンがお気に入りです。



屋外で撮影するときは場所選びから。歌詞と合う雰囲気をイメージしながら決めていきます。



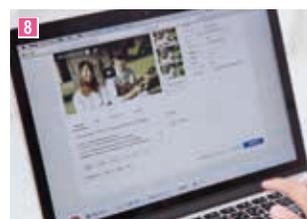
ストリートライブにも持ち出す愛用のキーボード。写譜からピアノ録りまでは1時間程度で終了します。



YouTubeで見ってもらうためにはサムネイル作成も重要。誰の曲を誰が歌っているかがひと目でわかるように。



撮影は事前に録音している音源に合わせて。ちなみに、撮影してくれているのも大音の同級生です。



朝に公開する日もありますが、動画の公開は17時ごろが中心。通勤・通学の電車などで見てもらいやすい時間帯を意識しています。



編集はMacに標準インストールされているiMovieで。もっと高価なソフトもありますが、最初のうちはこれで十分。

佐野仁美流 SNS 配信のポイント

1 自分が伝えたいこと=個性を前面に出そう

SNSは自分自身をダイレクトに発信できるツール。自分の個性やどんなところを見てほしいかを客観的に考え、伝えたいことを前面に出すことが大事です。

2 あきらめずに続けよう

「動画で発信してもなかなか見てもらえない」と、すぐにやめてしまう人もいます。でも、最初から見てもらえる人はごく一部しかいません。あきらめずに発信し続けましょう!

3 始めるなら今すぐにも

音楽に関しては年齢がとてども大事。実力が同じ程度なら若い人が注目を集めるものです。SNSでの発信に少しでも興味があるなら、今すぐにも始めよう!

渡邊 私は「表現力」と「発信力」は「セットだと思っています。音楽を表現する技術はこれまで大音でも教えてきましたが、これからはそれを世に伝える発信力も必要。プロダクションができたことで、発信する技術を教えられるし、学生にその意識をもってもらうきっかけにもなるんじゃないかと考えています。

久保田 演奏や曲を作るといった技術を大学で学んでも、人と交渉することやメールの送り方など社会に出た瞬間にとまどうことはいっぱいある。プロダクションで主体となって動く学生が、大学の学びの中で社会に適應できる力、実践できるスキルを身に付ける。それがプロダクションの狙いでもあります。

渡邊 かつては芸術を「仕事」とすることをタブー視するような風潮もあったように思うのですが、大音は「音楽で、はたらく」というフレーズとともにどこかギアチェンジしたような感じがします。昨年CoとCrが開講したのは、学生に対して明確な「出口」を用意したこと、「二つの意味があったと思います。学生を預かる以上は「好きな音楽です」と生きてほしい」と思っていますし、そのためには世の中に発信する力が絶対必要になってく

その他の効果はどういうところにあると思いますか。

渡邊 教員にも学生にも、大音にはすごいタレント（才能を持った人）がたくさんいるけど、今は個別に活動している。それが「チーム大音」というプロダクションとしてパッケージで発信できるだけでも全然違うと思います。

久保田 演奏依頼など外部からのオファーもプロダクションで一元化対応できるかもしれません。

渡邊 一元化すれば「こういうことをやっています」ということが教育と離れた形で発信しやすいしオファーを集めやすくなる。過去の実績もプロダクションのHPにまとめておけば、依頼する方もオファーしやすくなるでしょう。

久保田 そうやって学外からのリアルな依頼を学生が協働して学びの中で組み立てていけるという強みもあります。授業で設定するような机上の課題を考えるより、期日があったクライアントがいる、実際にコケたらめっちゃ困った人の顔が目につく——そんな生きた教材に触れられる状況がとても大事だと思います。

「発信すること」がミッションのCoにとって、プロダクションは実践の場であり、学びの延長なので基本的に利益は重視しません。ただ、Crにとってのプロダクシ

今年4月、学内にプロダクションが発足 社会に適應できる力を、 学びの中で身に付ける。

さまざまな音楽イベントやプロジェクトの企画・運営を学ぶプロダクション「epoch/C(エポック)」が今年4月、学内に誕生しました。社会に音楽を発信する仕組みの必要性や、プロダクションの設立によって何がどう変わるのか、ミュージックコミュニケーション専攻(以下、Co)の久保田テツ准教授とミュージッククリエイション専攻(以下、Cr)の渡邊崇特准教授が語り合いました。

る。学生が発信力を持つためには大学自身も発信力を持たなければならぬと思うんです。

久保田 そこを意識した教育を大学としても考える必要がありますね。そういう点では、プロダクションの設立という新しい試みは大学にとってのPRにもなりますが、

ンは作品を発信していくための筋道。作品に対する報酬(＝金銭的な利益)についてはどう考えていますか？

渡邊 額の多寡にかかわらず、自分の作品が現金として返ってきたらうれしいものですが、その筋道のつけ方を間違えると「技術を磨く」という本質的なことがおろそかになってしまいます。そこはしっかりと見てコントロールしないといけない部分だと思っています。

久保田 自分の作品がいくらの価値を持っているかという判断も難しい。

渡邊 学生には「お金を介してやりとりしているのは「人の心だ」と話しています。学生同士で曲を作ってもらったり、演奏してもらったりしたときの報酬も「お金はNG」というルール。学生たちはギャラの基準がわからないので安すぎても高すぎても絶対にトラブルになる。お礼の手紙やお菓子などで「感謝の気持ち」を伝えるように指導しています。

久保田 プロダクションを通して、これからどんな活動を考えていますか？

渡邊 ひとつは「作家事務所」になること。いい作家をたくさん育てて、日本だけでなく、韓国・中国で作られる映画音楽やCM、ポピュラーソングまで手掛けていき

「音楽で、はたらく」ためには、
世の中へ発信する力が不可欠。



「生きた教材」に触れられることが
学生にとっての大きな価値になる。



05
> PRODUCTION



01



子どもから大人まで通える音楽教室
大阪音楽大学付属音楽院
「さくら夙川」に
音楽教室を新規開校

7月15日、大阪音楽大学付属音楽院がさくら夙川(西宮市)に音楽教室を新規開校します。講師は大学教員をはじめ、各分野で優れた実績を持つプロの音楽家ばかり。伝統ある独自のカリキュラムで音楽を一から学べるだけでなく、楽しさいっぱいのレッスンで音楽を心から好きになれるはず。子ども向けに特化したキッズレッスンには「ピアノ」「ヴァイオリン」の2コースをご用意。ヴァイオリンコースでは分数楽器を1カ月1100円(成長に合わせてサイズ変更も無料)でレンタルできるので、子どもの成長に合ったサイズの楽器で気軽にレッスンを始めていただけます。音楽はリズム感や音感を鍛えるだけでなく感性や表現力、想像力を豊かに育み、お子様の大きな成長につながります。音楽を初めて習うお子様や興味を高めたい方、定年後の趣味に昔からあこがれていた楽器を始めたい方など音楽を楽しみたい方ならどなたでも学べるのが音楽院です。

大阪音楽大学付属音楽院 さくら夙川校
〒662-0978 西宮市産所町14-5
JR「さくら夙川駅」から徒歩 約5分
阪神「西宮駅」から徒歩 約8分
Tel 0798-38-6630 Fax 0798-38-6631
Mail:ongakuin-sakurasyukugawa@daion.ac.jp
www.ongakuin.jp/sakurasyukugawa

03



ひと足早くレッスンを体験!
マンドリン講習会参加者募集

現在の大学「クラシックギター専攻」短大「クラシックギター・コース」が、2018年度より「ギター・マンドリン専攻」「ギター・マンドリン・コース」にリニューアルされます。それに先立ち、8月2日(水)100周年記念館で、高校生を対象としたマンドリン講習会が開講されます。マンドリンレッスン生の公開レッスンや、ミニコンサート、専攻・コース紹介などが行われます。講師は、柴田綾子・柴田高明(マンドリン)、藤井敬吾(クラシックギター)です。現在、学校でギター・マンドリン部に所属している方はもちろん、マンドリンに興味がある方は、ぜひご参加ください。お問い合わせ:0120-414-015(入試センター マンドリン講習会係)

02



ミュージックコミュニケーション専攻プロデュース
シタール〜心を彩る音の流れ

6月28日、豊中市立文化芸術センターでミュージックコミュニケーションの学生が企画したロビーコンサートが開催されました。本学教員でシタール奏者の田中峰彦氏による演奏で、北インド古典音楽からビートルズ・メドレー、田中氏の自作作品まで、バラエティーに富んだプログラムでした。「チームでコミュニケーションを取りながら企画を進めていく難しさを感じた」という学生たち。当日は学生の一人が司会も務め、お客様とコミュニケーションを取りながら、20本もの弦から独特な響きの世界を生み出すシタールの魅力を伝えていました。

たい。もつひとつはスタジオコミュニ
ジションのチームも作りたい。大
阪で作曲している私がレコーディ
ングのほとんどを東京で行うのは、
単純にスタジオミュージシャンの
層の厚さという理由だけ。でも、
大音でもいい人材が毎年輩出され
ていてスタジオもある。「じゃあ、
大音でやろうよ」という気持ち
があります。「レコーディングと言
えば大音」という流れができる
最高ですね。
久保田 渡邊先生が言う通りリアル。
今すぐにもできそう(笑)。Coは
大音周辺の空き家などをサテライ
トスペースとしてライブやカフェな
どもやってみたいですね。庄内全
体が面白い場所だとして、ムーブ
メントを生み出せるいいなと思
います。
渡邊 そこまでいくと音楽教育の
枠を越えて、まちづくりのイメ
ジですね。
久保田 そう、大音の学生が母体
となって地域を巻き込んでいくイ
メージ。音楽がすぐそばにあるし、
アクセスもできるし、楽しむことが
できるということをいろいろな角
度から伝える場を持ちたいと思
います。「世界を視野にいったらCrと、
地域に根付いた活動のCo。その強
弱があることが面白いし、振り幅
の大きさが大音の強みにもなって
いくのではないのでしょうか。

©2017 フジテレビジョン 集英社 東宝 ©古屋丸 / 集英社



[映画音楽]

多彩な才能、充実の設備
大音のリソースが生きる分野

今春公開された映画「帝一の國」の音楽を渡邊特任准教授が担当。100周年記念館の録音スタジオでは映画内のコーラスを本山秀毅教授の監修で、また、映画の舞台となる高校の校歌を本学学生の歌唱で録音した。多彩な才能、充実した設備といった大音が持つリソースを生かした事例。

プロダクション設立で広がる、さまざまな音楽ビジネスの可能性



[まちづくり]

インターンとして外部イベントに参加
音楽によるまちづくりの可能性を探る

大阪を拠点にローカル・カルチャーマガジン「IN/SECTS」を発行するLLCインセツツ主催のマーケットイベント「KITAKAGAYA FLEA&ASIA BOOK MARKET」(今年5/27、28に開催)にCo専攻の学生がインターンとして参加。音楽だけでなくさまざまな分野のアーティストが一堂に会するイベントで、音楽を通じたまちづくりについて考えるきっかけとなった。



[音楽イベント]

合唱、演奏、ダンス——
大音らしさが詰まったイベント

昨年秋にオープンした豊中市立文化芸術センターのウェルカムイベント企画をCo専攻の学生が担当。Cr専攻との協働コンサートや合唱コンサート、ヴァイオリンとダンサーが参加したクラブイベントなど、大音らしい多彩な催しになった。



[ショー音楽]

外部プロジェクトへの参加が、
学生にとっても貴重な経験に

昨年8月に開催された「天平たなばた祭り〜平城京天祭・夏〜」で、ATWAS*のパフォーマンスの音楽をCr専攻のプロジェクチームが担当。「たくさんの人の前で自分が携わった音楽が流れていることに感動した」といった声が寄せられるなど、学外へのプロジェクトの参加は学生にとっても貴重な経験となった。

*夜の闇を光と音で彩るアーティストチーム

07 NEW RELEASE

大音関係者がリリースしたCD・本・楽譜など。

CD



竹中裕深 (03年度卒・チェロ)
agua e luz
 2000円(税込)
 O'trasCanciones
<http://kawolinha.wikisite.com/kawole/agua-e-luz>

CD



竹中裕深 (03年度卒・チェロ)
 藤原克匡 (09年度卒・チェロ)
Triad
 2500円(税抜)
 zipeast
<https://www.nash.jp/zipeast/>

09



マレーシア国立マラ工科大学室内合唱団
 UiTM室内合唱団が本学学生と合同授業

5月17日、卒業生の岸本正史さん(02年度院修・声楽)が、教員を務めるマレーシア国立マラ工科大学の室内合唱団を率いて来校。本山秀毅教授のミレニアムホールでの合唱授業に参加されました。全員で体を動かしながらのウォーミングアップの後、まずは本学学生がウエルカム演奏を披露。その後、UiTM室内合唱団がマレーシア民謡など3曲を演奏されました。後半は、本山教授、岸本さんそれぞれの指揮により合同で合唱し、時には笑いに包まれながら、両学生の力強い歌声が響き渡りました。

06



中・高校生約1000人が参加
 吹奏楽フェスティバル2017を開催

中・高校生を対象とした「吹奏楽フェスティバル2017」が6月4日、本学ザ・カレッジ・オペラハウスや各教室で開催され、約1000人の来場がありました。第65回全日本吹奏楽コンクール課題曲の本学学生による全曲演奏や教員による解説、セクション別講習会、楽曲分析講座など盛りだくさんの内容で行われました。

08



シプリアン・カツァリス
 客員教授就任記念リサイタル

世界的ピアニストのシプリアン・カツァリス氏が本学客員教授に就任され、5月20日にザ・カレッジ・オペラハウスで記念リサイタルが開催されました。オール・シューベルト・プログラムで、前半は楽興の時 作品94 D.780、4つの即興曲 作品142 D.935、リスト編曲の歌曲作品などを、後半はピアノ・ソナタ第21番変ロ長調を演奏され、会場は鍵盤の魔術師と言われるカツァリス氏の音楽に包まれました。また、同日と翌21日にはマスタークラスも開講され、本学学生など7人がレッスンを受講しました。

大阪音楽大学'88年大学短大入学 または'92年大学卒業生有志による
同窓会のお知らせ
 8/16(水) 13:00~16:00 ●大阪音楽大学食堂ばうぜ ●5000円 お子様連れは小学生未満無料、小学生2500円、中学生以上5000円 ●7/25申込みバ切 ●詳細についての問合せ・申込み daion_nyugaku88@yahoo.co.jp (熊本)

編集後記
 今回は、音楽をやっている人なら、きっと永遠のテーマであるだろう「音楽の伝え方」にスポットを当てました。「伝える」と一言で言っても、その方法や内容は様々で、音楽の伝え方にはいろいろなアプローチがあることを改めて考える機会になりました。特集の最後で取り上げた「プロダクション」は、本学が学外に音楽を伝えていく要になっていくと思いますので、こちらもご注目ください。

04



クロード・ドゥラングル客員教授
 サクソフォーン・リサイタル

フランス国立バリ高等音楽院教授、本学客員教授であり、世界的なサクソフォーン奏者として活躍されているクロード・ドゥラングル(Claude Delangle)氏が来日。5月18日に本学ミレニアムホールでマスタークラスを、翌19日にザ・カレッジ・オペラハウスでサクソフォーン・リサイタルを行いました。リサイタルは井上麻子特任准教授の司会で、ヴィラ＝ロボス作曲「ファンタジア」で始まり、4曲の精力的なプログラムを演奏されました。飯守伸二特任准教授の指揮で大阪音楽大学サクソフォーン・オーケストラとして共演したサクソフォーン専攻生たちは、ドゥラングル氏による指導と演奏に触れ、充実した2日間に感激した様子でした。

05

キラリ★輝く大音の星 各種コンクールで受賞された皆さん。



川邊由布子 (15年度院修・ピアノ)
 第4回
 いかがが音楽コンクール
 プロフェッショナルSection
 ピアノ部門
総合1位
 >2016年11月27日
 いかががホール



渡辺有歌子 (16年度短大卒・サクソフォーン)
 第4回
 いかがが音楽コンクール
 プロフェッショナルSection
 管楽器音大生・院生部門
第1位
 >2016年11月27日
 いかががホール



上田悠加 (大3・ピアノ)
 第5回 JILA
 大阪音楽コンクール
 ピアノ部門
第2位 (1位なし)
 >2016年12月25日
 大丸心斎橋劇場



安藤華菜 (大専・クラリネット)
 第19回
 “万里の長城杯”
 国際音楽コンクール
 管楽器部門大学の部
第2位 (1位なし)
 >2017年3月26日
 ビッコロシアター



栗本葉瑠花 (大専・ピアノ)
 第19回
 “万里の長城杯”
 国際音楽コンクール
 ピアノ部門大学の部
第3位
 >2017年3月26日
 ビッコロシアター



勝部藍里 (大4・ピアノ)
 2017年度アマチュアクラシック
 フェスティバルin大阪 KOSMA
 ピアノ・声楽コンクール
 ピアノ部門音楽専攻クラス
大阪府知事賞
 >2017年4月23日
 ザ・フェニックスホール



山口莉奈 (16年度大卒・クラシックギター)
 第48回クラシカルギター・コンクール
第3位
 >2017年5月3日 東京都中央区立日本橋公会堂(日本橋劇場)
 第42回ギター音楽大賞
大賞部門 第1位、大阪府知事賞
 >2017年5月6日 門真市民文化会館ルミエールホール小ホール



小林大真 (大4・クラリネット)
 吉本季央 (大4・クラリネット)
 入船りさ (大1・クラリネット)
 大畑卓也 (大4・クラリネット)
 第1回ドルチェ楽器アンサンブルコンクール
 大学生・一般の部
クラリネット四重奏 金ドルチェ賞
 >2017年4月2日 ドルチェ・アーティスト・サロン大阪



河島利香(大3・ピアノ演奏家特別)
**第29回宝塚ベガ音楽コンクール
 ピアノ部門
 第1位、兵庫県知事賞**
 >2017年6月24日 宝塚ベガホール